

【語どもたち音源】

鮎谷周史の、圧巻！

「あえて言おう。語彙力のない人は
成功できない、と！」

放談会音源

セミナーにご参加下さった方ならびに
音源をお聴き下さった方からの
ご感想集

小手先のスキルではなく、波及効果が高い本質的な学びという意味において、本音源は数十万円の自己啓発セミナーよりも、数百冊の自己啓発本よりも、価値がある内容だと思います。

本音源は、ある意味究極の自己啓発。と言えるかもしれないと思いました。

「楽しいから笑うのではない、笑うから楽しいのだ。」

というのはウィリアムジェームズの有名な言葉ですが、この言葉が伝えてくれていることは、感情の変化は事後的に発生するという事。つまり、感情を動かすには、感情が動いていない状況で何かをしなければいけない。ということです。とはいえ、感情が動いてない状況で何かをすることは非常に難しく、一瞬であればやる気を出すことはできますが、それを継続するとなると一気に難易度が上がります。

例えば、正月に立てた目標も、3日もすれば忘れてしまう人が多いのではないかと思います。そして、その都度、自己啓発のセミナーに行ったり、自己啓発の本を読んだりするのですが、やる気は続かないんですよね。。毎日、高いやる気を維持して過ごしたいと考えている方は多いと思いますが、そんな中で、やる気がなぜ続かないのか。そして、やる気を維持するにはどうすれば良いのか。という問いに対する答えが詰まっているのがこの語どもたち音源ではないかと思っています。

この音源で学んだことを一言で言うならば、

「言葉に感情を紐づける方法。」

とでも言えるでしょうか。（あくまでも当方の解釈です。。）

さらに言うなれば、感情が動いていない状況においても、勝手にやる気が出てきてしまう方法。と言えるかもしれません。

改めて思い返してみると、自己啓発セミナーも、自己啓発本も、言葉と感情が紐づくような設計になっていないものが多いんですよね。（ここでの「言葉」は、頑張るぞ！といった一瞬のやる気を誘発するものではなく、普段当たり前のように使う言葉を意味します。）それは恐らく、その場で一瞬だけ「やる気」を高めた方が、顧客が価値を感じて貰いやすいということ。

更に、言葉と感情の最適な組み合わせは一人一人異なるものであり、且つ時々刻々アップデートされているもの（汎化がむずかしい）ということが理由として挙げられるのではないかと考えています。

そういった中、汎化が難しい内容を、（当たり前に使う言葉から感情を想起する方法を）具体と抽象の往復を通じて学ぶことができるのが、語どもたち音

源ではないかと思うのです。

小手先のスキルではなく、波及効果が高い本質的な学びという意味において、本音源は数十万円の自己啓発セミナーよりも、数百冊の自己啓発本よりも、価値がある内容だと思います。

いや、改めて言葉ってすごいですね。一つ一つの言葉に意味付けをされ、魂を吹き込んでいる鮎谷さんには畏敬の念を覚えずにはられません。

改めまして、今回も素晴らしい音源をありがとうございました！

(株式会社 CODOR 代表取締役 大橋亮太 様)

私にとっては、今まで No.1 音源？と思った、「ピラミッド音源」に匹敵（凌駕？）する、自身で明らかな効果を感じることが出来る音源でした！

鮎谷様

いつも貴重な音源、有難うございます！

本音源、

- ・ なんとなく目標は立てていたものの、
- ・ 目標に臨場感が無く、
- ・ 結果、ここ数年、日々に流され、なんとなく生きてしまっていた

自分から、

- ・ 目標の自分にとっての意味合いが明確となり
 - ・ （完全ではないものの）日々の行動が明らかに変容しつつあり、
- *・（ほぼ？）毎日楽しく、充実感を得ながら生きている

自分への変化（まだまだ道半ばですが・・・）のきっかけとなった、本当に貴重な内容の音源です。

個別コンサルではじめて「語ども」の話をお聞きしたときは、正直、あまりその意味がわかりませんでした。が、実際にやってみて、「こりゃーすげー！」と、大袈裟ではなく、本当に感動しました！

私にとっての現時点の「語ども」作成の効果は、

● 「目標の意味」「自分の価値観」の明確化

・ 今まで自分が書き続けていただいた目標の、自分にとって、意味が明確になりました。

・ また、自分が大切にしている言葉の意味を考え・書くことで自分の大切にしている価値観が明確になりました。

● 日々の行動変容

・ 目標の意味や価値観が明確になったことで、目標（未来の自分）に臨場感が出てきました。

・ 恐らくですが、その影響で、目標（理想）の自分として行動できる率が

■ 当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます ■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

（まだまだ 10 戦 2・3 勝のレベルですが・・・、とはいえ）明らかに高まりました。

●日々の充実感の増加

・自分の目標、価値観の意味が明確となり、日々の行動が変容しつつあることで、毎日機嫌よく、楽しく過ごせる率が、明らかに高まりました。

という、感じです。

（無意識領域では、もっと効果が出ている気がします）

鮎谷さんの音源は相乗効果を生むシステムで、もちろん単発でも大きな効果がありますが、複数の音源を聞くことで、その効果が「掛け算」で増えていくものだと思います。

どの音源が一番、というのはナカナカ難しいですし、個人の状況にもよりますが、私にとっては、今まで No.1 音源？と思った、「ピラミッド音源」に匹敵（凌駕？）する、自身で明らかな効果を感じることが出来る音源でした！

一生使える考え方だと思いますので、人生を通じて活用していきたいと思っています！

引き続き、個別コンサル含め、よろしくお願いします！

（K. M 様）

お話を聴きながら、すべて書き留めてみたのですが、A4 一枚にびっしりと埋まっています。Being とはこのようなものなのかと、パラダイムシフトを起こさせていただきました。

鮎谷さま

いつも大変お世話になっております。

この度も貴重な音源をありがとうございました。感想をお送りさせていただきます。

1 強い、優秀な言葉が入ると辞書全体が更新される

辞書全体が更新されるような言葉があると、見えている世界が違ってくるというお話が、非常に刺さりました。(自分はバスケットボールをしていましたが) 1人、2人の勝気なメンバーがいるだけで、その年代のチームはチーム全体が強くなります。これと似ている感覚でした。強い、優秀な言葉を探そう、是非、自分の辞書に掲載したい、そのように感じました。

2 Being にいる言葉の数に驚きました

お話を聴きながら、すべて書き留めてみたのですが、A4 一枚にびっしりと埋まっています。Being とはこのようなものなのかと、パラダイムシフトを起こさせていただきました。勝手にあの数の 1/4 くらいが文章として存在しているのが、Being 目標と言われるものかと誤解しておりました。あれだけの数があれば、何かに触れた時には自問自答が生まれますし、ピラミッドが強固になっていくと確信しました。またコンサルを受けさせて頂いたときの多方面からのアドバイスも、そういうことなんですと腑落ちしました。

3 ピラミッドを組み上げるには必須の知恵と思いました

目標、日記、物語の3部作音源で概観がわかって、ピラミッド音源でその構成がわかりました。今回の音源では、ピラミッドに積んでいく個々のブロックがどのようなものであるか、どのような役割をしているかがわかりました。最上位にある言葉の集団、その下に続く言葉の集団、それぞれに違った役割があるのですね。最上位に配置される言葉(ブロック)は具体的にどのようなものかを語っていただいたことで、全体のブロックの要素がより鮮明になりました。

自分にとってはこの音源がこれまでの音源からの学びを更新する良い言葉の集団でした。

ありがとうございました。
今後ともよろしくお願いいたします。

（奥田 龍史 様）

日記音源の中でも自身の言葉を緻密にしていくというお話はありましたが、辞書というメタファーからのお話を聞くとより鮮明にイメージができるようになりました。

今回の音源で一番価値があると感じたことは、人生がまさに辞書の編纂そのものだという比喻です。

日記音源の中でも自身の言葉を緻密にしていくというお話はありましたが、辞書というメタファーからのお話を聞くとより鮮明にイメージができるようになりました。

私の概念は今までだと「人生うまくいく概念の集積」といった程度で、言葉と言葉のつながりも浅いものでした。辞書のように編纂していくという概念を持つと、本棚を与えられたように格納するスペースを得たように感じました。

また「語どもたち」と鮎谷さんがおっしゃられたように、あつめた言語を闘わせ、言語のバトルロワイアルで勝ち抜いた言葉を頭の中で常駐させることで、思考が変わっていくというお話もしっかりくる概念となりました。

とはいえ、かなり抽象度の高いお話であり、いまだうまく咀嚼できていないことも多いですが、何度も聞きながらより価値ある言葉を編んでいこうと思います。

今回も価値あるお話をありがとうございました。

（新家 薫 さま）

個人的には音源の中でお話しされていた、仕事とお金の定義が非常に解像度が高く、実はこちらの方が驚いてしまいました。ここまで具体的と抽象を行き来していて、明確かつ具体的に落とし込まれていた所以我はこの部分だけでも金額分以上の価値を感じました。

この音源は、元々鮎谷さんの149のBeing目標が気になり購入したのですが、これだけでももちろん買いですが、個人的には音源の中でお話しされていた、仕事とお金の定義が非常に解像度が高く、実はこちらの方が驚いてしまいました。

ここまで具体的と抽象を行き来していて、明確かつ具体的に落とし込まれていた所以我はこの部分だけでも金額分以上の価値を感じました。

自分にとって、仕事とは？お金とは？
解像度高く考え鮎谷さんのレベルに追いつきたいです。
ありがとうございました。

(T. M 様)

「この音源を逃さないでよかった」というのが正直な感想です。

鮎谷さん

「この音源を逃さないでよかった」というのが正直な感想です。

実を言いますと、時間・金銭的な制約により、この「語どもたち音源」は一時は見送ろうかと考えました。ただメルマガを読んでいるうちに例のごとく陥落した訳ですが、本当に鮎谷さんに陥落させて頂いて良かったです。今回も、素晴らしい音源、ならびにいい買い物でした。

「仕事」等の重要な基本語に自分独自の定義を与えるべき、という話は、鮎谷さんのメルマガ・音源に触れてきた人にとっては新しいものではありませんし、その他の音源で語られている内容も、今までメルマガ・音源で触れたものが多かったように思えます。ただ、これらの内容を、「辞書を編む」というメタファーならびに「語ども」という生き生きとしたイメージを隆起させるキーワードを基に全体が統一されたパッケージとして聴きますと、とても強く感情を揺さぶられました。

この体験を通じて、あらためて比喻を含めた強い言葉の重要性を体験出来たことも重要な学びの一つです。そしてこの感情誘発装置を内包したパッケージは、今まで理解した（と自分が思っている）ものをさらに漆塗っていくための格好の教材になると思いました。今後も聴きまくります。

音源の内容については、特に以下の三点に触れたいと思います。まず第一点目は、この音源は「ものごとの考え方の指南書」なのではないかと思いました。言葉の定義を考える＝その言葉で表されるものの本質を考える、ということですので、言葉の定義を考え、辞書を編むということは、つまりものごとの本質を考えることだと思いました。正直、重要な基本語の本質は自分にとって何なのかを内省していくことは、認知的にとてもしんどい作業ですが、こうして認知的な負荷を自分にかけ続けていけば、やがてものごとを深く考える能力が身についていくに違いないという予感（と希望）を得ました。

第二点目は、自分の辞書を編む＝それぞれの言葉に関する、自分個人にとって重要なことを明確化・意味付けすることですので、結局の所、辞書を編むとは自分の価値観を規定することなのではないかと思いました。例えば、自分にとって「人生」「仕事」「家族」とは何なのかを突き詰めるということは、もう己の価値観・人生観を規定することであり、ひいては自分がどう生きたいのかを決めることであると思います。そういう意味で、辞書を編むということは Being 目標を定めることへと収斂していかざるを得ないのではないかと思いました。

そして第三点目として、自分が言葉をないがしろにしている可能性の怖さが身に沁みました。ソシユールの言語論ではありませんが、私たちが言語により世界を認

■当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

識しているのならば、ある言葉が無ければその部分の世界は認識すらできない訳です。そしてその認識できていない部分は、その存在すら知ることが出来ない訳です（なぜなら認識できないから）。そう考えると、いったい自分はある言葉を知らないが故に、どれくらいのことを認識すらできずに見逃しているのだろうかと不安になりました。あるいは、その言葉は知っていたとしても、その本質を十分に理解していないが故に、その言葉から行動を変えられるレベルでの気づきが得られていないなどということはざらにあるように思えました。音源の中で辞書の編纂者が日常で出会った新しい言葉を逃さないように常にメモを取り続けているという話がありましたが、それぐらい真剣に語どもたちと向き合わなければならないと思いました。

その他にも様々な気づき・学びが得られました。特に具体的な方法論についての説明（例えば語どもたちが矛盾した場合は Or に逃げない）はとても参考になりました。また、鮎谷さんの語ども達を公開して下さったのも、大変参考になりました。冒頭で触れましたように、「この音源を逃さないでよかった」と心から思いました。

今回も本当に素晴らしい音源をどうもありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

（Y. H 様）

今回の『語どもたち音源』は、他の音源との密接な関係のもとにあるものです。単体でも価値があるとはいえ、他の音源を通じてこそいっそう大きな効力を発揮するものであり、また既に公表されている他の音源の効力を一気にブーストするものであるとも言えるでしょう。

長くなるので初めに書いておくなり、今回の『語どもたち音源』は、他の音源との密接な関係のもとにあるものです。単体でも価値があるとはいえ、他の音源を通じてこそいっそう大きな効力を発揮するものであり、また既に公表されている他の音源の効力を一気にブーストするものであるとも言えるでしょう。

（普段よりも）いささか抽象的な趣きの強いように見える本音源は極めて重要な位置を占めるもので、抽象的な方向に行きたがる（私のような）人間の欲望も、あるいはざらざらとした大地に足をつけて具体的に物事を見たい人間のニーズも、どちらも満たしうるものではないかと思われます。

■

自分で語や概念を集めてきて、あるいは既存の語に対して独自の意味を与え、それらを取捨選択しつつ有機的に結びつけながら（「語どもたち」の選抜と協同）、やはり独自の法に貫かれた「辞書」を編む、という発想が示されている音源です。

こうした発想はそもそも、一般に想像しやすい辞書というものがそれぞれ異なる編集方針を持っているという、また出版されて終わりというものではなく常に生成変化をつづけるけるという観点と、鮎谷さんが平素の自問自答、及びコンサルやその他の人間関係から収集されたビッグデータ(?)とをあわせて析出されてきた物の見方、ないしは比喻であるように思われます。

なぜ「辞書を編む」のかと言えは、使う言葉で生き方が決まるからですが、「使う言葉で生き方が決まる」というのは、言われてみれば当たり前のようでもあり、なんだか新規性に乏しく見えるかもしれませんが、そんなことはない、ということ、を、先ず述べておきたいと思います。

物語音源の発売前後でメルマガにも載せられていた「(私の)言語の限界は(私の)世界の限界である」というウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』5.6の文言が、今回も極めて自由に引用されていましたが、これだけだと「わかつとるよ」と言う人もあるかもしれません。

もちろんウィトゲンシュタインの主張からは自由に離れますが、手持ちの言語によってのみ世界を記述・認識することができて、世界は認識される限りにおいて意味を持つことから、こういった言語を持つかという点に応じて個々人に対する世界の意味合いが定まる、と言えは、多くの人は賛同するだろうということです。

多様な雨を区別する日本語を操る人間は、ある意味では非日本語話者には見えない世界を見ているわけですし、性別や月齢や毛色やその他の特徴に応じて馬を微

■当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

細に区別するモンゴル語は、日本語とは異なる世界を照らし出しています。こう言えば、一定程度抽象的な思考ができる方であれば、「うんうん、そうだよね」ということになるでしょう。これと同様に、私たちは生育環境や経験に応じてそれぞれ異なる言語セットを持って、それを通して世界を見ている、というなりゆきです。

同様に、日記（時々刻々の記）を通じて良質な言葉・意思決定基準を体に染み込ませようというのも、常々（？）説明されてきたことで、新しさがないと言われればそういうところはあるかもしれません。

しかし、今回盛んに用いられた「辞書」の比喻は、これらの観念が持ちうる困難を克服する効果も持っていたように思われます。言語世界という漠然とした言葉では、様々な概念に対する具体的な態度が曖昧になりがちのところ、また日記や時々刻々の記といった発想ではそれぞれの意思決定基準が断片的になる危険性があるところ、一貫した編集方針ないしは思想を持った語義（≡世界観）の集積であることを感じさせる「辞書」という比喻は、日々の行動の稠密度と一貫性を引き上げるのに貢献しうるものであると感じられた、ということです。

この点で今回の音源は、目標に向けて具体的な・一貫性を持ったをブロックを積む発想に言及する『ピラミッド音源』に対応するものとも言えます（し、音源中でも言及されていましたね）。また、『自問自答音源』を大幅に補完するものでもあると言えるかもしれません。

■

「辞書」という比喻に入り込んでいくにあたって、音源では白川静の著書や三浦しをん『舟を編む』などの例が豊富に紹介されます。比喻は比喻ですから、比喻的でない「辞書」がなんであるか、ということを想起させることから話が始まる、ということです。

私は特にいくつかの外国語の辞書を日常的に、おそらくは人より高い頻度で・高い集中力を持って使っているので、そこから「辞書」なるものについても一定のイメージを持っていましたが、そこからでも、軟着陸してゆくことはできました。まず見ておきたいのは、この「辞書」の比喻が様々な角度から見て十分に説得力のある、無理のないものだということです。

当初私は「特定の文脈において、テキストを適切に読み、また自らテキストを適切に紡いでゆくための基本的かつ必須のツール」というくらいに辞書を観念していましたし、比喻的でないものとしての辞書については、これでまあ60点くらいはあげられるかな、という観念でしょう。

テキストないし文章というものは、もちろん言語であるからには一つの世界ですから、テキストを書くということは世界を作ること、テキストを読むということは世界を読むということです。つまり、辞書は世界に関わるための必須ツールだということです。

そして、時代や場所に応じて言語＝世界が変わる以上、使うべき辞書は当然変わっ

■当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

てきます。同じフランス語であっても、フランス象徴主義の詩を読むなら 19 世紀後半に編まれたリトレの仏仏辞典は必携ですし、古典ラテン語と中世ラテン語では使うべき辞書の選択が変わってきます。

また、必ずしも dictionary ではありませんが、哲学なら哲学用語辞典があり（ときには特定の著者に特化した用語辞典さえあります）、受験世界史なら世界史用語集があり、当然、一般の辞書には現れない単語の存在を明かし、また他の場面とは異なる単語の意味を示す機能を持っています。これらもまた、特定の文脈に分け入るためのツールであると言えます。

そして、もちろん辞書というものが決して無垢な・価値中立的なものではない、ということも、鋭く（？）意識されているところでした。

鮎谷さんやメルマガ読者諸賢にとっては旧聞に属することかもしれませんが、思い出しついでに「感想」の一部として書き留めるなら、寧ろ歴史的に言って辞書は、見出し語の選択や語義の説明の仕方において、ある種のイデオロギー闘争の場でした。

例えば 17 世紀のピエール・ベールの『歴史批評辞典』や、18 世紀のヴォルテールらの『百科全書』といった辞書----dictionary か encyclopedia かは微妙なところですが----は、全く価値中立的なものではありません。価値中立を装いつつも、その態度こそがそもそも啓蒙思想に基づくもので、既存の権威への一個の挑戦でしたし、いわゆる啓蒙思想家も一枚岩ではありませんでした。特定の語の定義をどのように行うか、いかなる用例や権威に訴えるか、ということも含め、語の定義や説明は政治思想上の決定的な問題になっていたのですし、だからこそ『百科全書』は検閲され、当局から弾圧を加えられ、幾度も改訂されたのです。

東洋に目を移すのであれば、厳密な意味での dictionary ではありませんが、18 世紀中国の『康熙字典』などはそもそも皇帝の指示で編纂されているもので、学問的な無垢な価値しか持たないものではなく、世界の認識そのものを規定し支配する象徴的な効果を持っていたと言っても過言ではないでしょう（だからこそ、建前上は無謬である皇帝を名目上の著者とするこの字典は、一定の期間、誤りを訂正されなかったと聞きます）。

これらは極端な例かもしれませんが、どのような辞書も究極的には中立・プレーンなものではありえない、ということです。

以上のような観念、つまり「辞書は何らかの思想に基づいて世界に触れ、また世界に影響を及ぼすためのものだ」という極めて素朴な、辞書に日常的に親しんでいれば概ね共有されそうな観念を一応思い出しておくことで（あるいは音源における諸々の導入を聴くことで）、比喻としての「辞書」ワールドにはすんなり入っていけそうです。

辞書については、各人が何らかの観念を持っていることもあれば持っていないこともあると思いますが、少し考えながら聴いてみると、広がりが見られるかもしれ

ません（それこそ「辞書」に関する「語どもたち」が増える、ということです）。



多くの場合、辞書学者や辞書編集者でもなければ辞書を編むことはないはずですが、このくらいに「辞書」の観念を広く抽象的にとっておくと、特に専門に関係なく「辞書を編む」という発想にすんなり進めそうですし、「よく考えたら私も辞書編んでたわ」という人も出るかもしれません。

私はといえば、自分で（日本語であれ、外国語であれ）文章を書くにあたっては、表現・用例集のようなものを作ってきました。そうした「辞書」は、用例を実際の文章や既存の辞書から採集してきて、自分の身に叩き込むためのものです。

鮎谷さんが今回の音源で提示されているのは、これのビジネス版・人生版だ、と言うと我田引水が過ぎるかもしれませんが、人生や、その大きな部分を占めている人間関係とか仕事とかいったものに関しても、そうした「辞書」を独自に編んでいくという発想（と具体例）が、今回の音源では提示されていたのだと思います。

語学や諸専門領域の場合と違って、極めて普遍的な、というか誰もが関わらざるをえないような事柄に関して、一貫性を持った言語セットとしての「辞書」を編むという発想は、出てきそうであってこないものですし、極めて重要なものであるように思われます。

なぜ重要であるかといえば、「辞書である」と言えば少なくとも意識に上りますし、統一された方針に基づいて編集する（編集しつつける）ことで、自分の行動に適切な意味（＝方向）を与える可能性も生じるためです。

そもそも、各人は各人が独自の概念枠を持ってそれぞれの世界に参入しているということは間違いのないことです。つまり各人はそれぞれ、どれほど一貫性があるか・記述が安定しているかはともかく、何らかの「辞書」を確かに持っている（これらが衝突しあうのが、一定の場面における「同床異夢」であることは、音源で言及されている通りです）。

しかし恐ろしいのは、音源でも言われる通り、こうした「辞書」は、優れたものであれ、しょぼいものであれ、明確なかたちをとっていないことが多い、ということです。書かれないどころか、意識にものぼっていないかもしれない。つまり、自分がどういう「辞書」つまり世界認識の枠組みを持っているかということについて、人間は鈍感になりがちで、多くの場合には気づいていないということです。

謂わば私たちは世界に対して（極めて不器用な）ネイティブスピーカーですから、世界というテキストを読むにあたって辞書を意識的に用いようとせず、既成の、意識的に編まれているわけでもない辞書で立ち向かいがちだということです。日本語の文章を読むときに多くの日本人が自分の語彙力を過信して辞書を引かないのと似ているのかもしれませんが（本当は引きまくったほうがいいと思うのですが）。

なるほど、先程見た例によせるなら、語学を一定以上の水準でやっている人であれ

■当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

ば、外国語と母語の用例採集を意図的に行って、表現辞典のようなものを紙の上に、あるいは頭の中に叩き込んでいるという人も珍しくはないはずで、こうしたことをやっていれば、自分がどういう手札を、「辞書」を持っているかということは比較的明らかになりやすいものです。

語学に限らず、各々の専門分野や、仕事に関しては、他者に伝える必要があるからきちんと言語化（ときにはマニュアル化）している、ということもよくあるでしょう。

しかし、広く言って人間関係とか、あるいは仕事とか、そうしたものに關する言語は、人生に・生活にあまりにも深く浸透してしまっているからこそ（あるいは人生そのものだからこそ）、なかなか自分で形にしない・できないものですし、それゆえより良いものにしてゆくことも難しい場合があります。

断片的に形にしていなくても、なかなか一貫した「編集方針」を持った辞書にはなっておらず、「なんかイイ言葉を（無秩序に）集めました」みたいな体になっていることもあるでしょう。そうして断片化されていると、自分が全体としてどういう認識の枠組みを持って世界に立ち向かっているか・どういうふうに世界を認識したいか、という点にはなかなか意識が向かないはずですし（≒編集方針の欠如）、おそらくは有意義な行動にも結びつきにくいはずです。

わりとどう生きていたってたいいの場合には関わらざるをえないもの----お金とか人間関係とか----についてどのような認識を持っておくか、あるいは個々にとって重要なはずのものにどういった観念を紐付けておくかということは、断片的なままにとどめておくと、いきあたりばったりになってしまう、ということです。そしてバラバラな言葉を持って、いきあたりばったりにはやっていると、なかなか重みも実在性も持たせられず、以ってかはばかしい効果を発揮しえない、ということです。

もちろんひとつひとつ深掘りしていけばそれぞれ結び合わされていくかもしれませんが、統合されてゆくという発想を最初から持っておくほうが、きっと都合が良いのでしょう。つまり語釈を漠然と持って漠然と深めるよりも、最初から「一定の編集方針に基づいた語釈の集積・システムとしての辞書を編もう（編みつつけよう）」と思っておけば、ふわふわと流すことなく、地道に言葉を集めてゆける（かもしれない）のだと思われますし、この比喩は言葉に触れ・言葉を集める際のガイドラインとして機能するのもかもしれません。

言葉を集めて編集してゆけるということは、認識のありかたのほうを間接的に弄ることができるということであり、これは極めて大きい波及効果を持つことでしょう。それどころか、言語が世界の限界であるからには、この作業が全てであるとさえ言えるのかもしれませんが。であれば、「辞書」を編むことは人生を編むことで、「辞書」の編み方を知ることは人生の編み方を知ることだ、と言っても過言ではないでしょう。

こうした点を改めて認識して、自身のために意識的に語や語釈や諸概念のシステ

ムを、世界認識のフレームを構築してゆくためのメタファーとして、辞書という観念は（論理的にというより、実践的に）適切であるように思われます。



こうした意味での「辞書」というのは、個人の文脈や必要に応じて編まれるものですから、見出し語の選定も、語釈の与え方も、概ね自由ですし、人生のステージに応じて組み替えてゆくことになるのでしょう。

もちろん多くの場合には、「金」とか「人間関係」とか「仕事」とかいった語彙が入ってくるでしょう。そうしたものに与えられる独自の語釈とともに、各人が自分の「辞書」に入れた方がよいと思われる様々な言葉や概念-----これらが「語どもたち」と表現されている、と理解しました-----を集めてきて、それらをときに競わせ、あるいは協力させて、全体としてのシステム、ないしはパラダイムとしての「辞書」を構成していく、そして不断に編み変えてゆく、という発想であると思います。

「辞書」というイメージで、つまり一応語と語でわけておく、「語どもたち」の集まりとしてとらえておくのが良いのは、「思考のピラミッド」と同じで、構成要素間が極めて緊密に結びついているとは言っても、順次組み換えていけるということです。

組み換えにも色々あるでしょう。単に新しい言葉を導入して済むマイナーチェンジもありそうです。

他方で、大掛かりな工事が要ることも有るでしょう。根本的に組み換えるという段になれば、どの辞書にもあるような基本語に対する認識についても大きな変革を迫られるのでしょう。音源で言及されている三浦しをん『舟を編む』から連想するなら、言語の海原に漕ぎ出すための辞書＝船舶の、竜骨を変える必要が生じるということです。竜骨を変えるからには、肋材も梁も変えてゆくことになるでしょう。そうして新たに全体的なシステム＝舟としての辞書が構成されていく、そうしたときも来るのかもしれませんが（これもまた、ピラミッドを拡張しずらしてゆくことと並行関係にある事態で、『ピラミッド音源』の復習が望まれるのかもしれませんが）。



辞書は持っているだけ・作るだけでは足りず、作られた辞書は作ったはしから使っていくべきものであって、その辞書に載った語や語同士の結びつきからなるシステム全体というものは、とりもなおさず世界というテキストを読み・新たな世界というテキストを紡ぐ（＝実践にうつされる）ことを最初から目指しているものでありましょう。舟は海原へ漕ぎ出すためのものであって、組み立てて眺めるだけでは足りない（それはそれで楽しいかもしれないけれど）。その設計図を他の人に教えるということはあっても、基本的には地上で飾っておくためのものではない。

独自に選定された語に対して与えられた、やはり独自の、しかし有機的に相互に結びついた意味の集積としての辞書というものは、その中に含まれている語釈や意味を具体的な実践に移してこそ意味があるものです。

■当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

こうして実践していくプロセスの方は、寧ろ先立って公開された『自問自答音源』や、あるいは遡るのであれば『目標設定音源』・『日記放談会』などの音源に顕著に言及されているとすれば、本音源で説明されるのは、海へと漕ぎ出してゆくための「舟を編む」プロセスだった、と言えるでしょう。

（もちろん、舟を編んでいる間は動かなくてもいい、というわけでもなければ、海に繰り出しているときに船の設計図に思いをいたす必要がない、というわけでもありません。これらのプロセスは事実上は同時進行ということになるのでしょう。海原に出なければどのような舟を作るべきかもわからず、実際に作ってみなければどこまでいけるかはわからないからです。）

■

以上が冗長な雑感であるとすれば、初めに、また通りがかりに触れてきたとおり、やはりこの音源は他の音源と合わせて聴くことが望まれるものであって、そのときにこそ真価を発揮する（？）ものではないかな、と思います。

言うまでもなく、「辞書」はある意味ではテキスト（≡世界）を読み・書くための道具ですし、表題となる「語どもたち」もまた同じ地位にあります。それゆえこの音源は（小手先のものではない）基本的なツールの醸成に関わるものであり、ツールの実際的な運用という面ではもっともっと語るべきところがある、というのも事実かもしれません。だからこそ、諸音源との関連もふまえながら、この音源を自分なりに解釈しておくことが、一定の価値を持つのではないかな、と思われました。

（R. H 様）

この音源の圧巻は、やはり鮎谷さんが、（少々はにかまれながらも）ご自身の愛する149人の「語どもたち」をノンストップで一挙に発表されたところです。

鮎谷さん、

この度の音源におきましても、多大なる気づきの数々をありがとうございました。

今回ほど「語彙」について、改めてじっくりと考えたことはなかったと実感しています。

我々が「知っている」とするところは、殆どの場合、ただ単にその単語の意味を理解しているという意味で、「知っている」に過ぎないということ。

しかし「語彙力」とはその単語の表面的な意味だけではなく、その成り立ちやバックグラウンド、そこから連想される良質な意思決定基準まで想起できる力だと考えます。

聴講者のご質問に対する鮎谷さんのお答えの中で、「土地」と聞いて連想することが、単なる「空き地」として捉える人、それを「所有権（登記）」から「抵当」、はたまた「商圈化」まで連想する人がいるということ。

つまり「虫の目、鳥の目、魚の目」をもって一旦抽象度を上げ、俯瞰してみたり、時代の流れを踏まえて、時間軸において広い視点で見ることの大切さを述べておられました。

ここにおいても、俯瞰することや抽象化することは、「語彙力」なしには成し得ないことだと考えます。

同じものを見たときに、他の人には見えないものまで見える力、そのための補助線を引ける力を持っていることが、業界において抜きん出る存在になるには必須であり、そのために必要なのが遅しき「語どもたち」の存在だと感じました。

この音源の圧巻は、やはり鮎谷さんが、（少々はにかまれながらも）ご自身の愛する149人の「語どもたち」をノンストップで一挙に発表されたところです。

それぞれの「語どもたち」が聞く人によっては響く言葉と、そうでない場合がありますが、それよりも一気にそれだけものの言葉がスラスラと出てくるという事実が、脳内で常々そういった良質の言葉＝意思決定基準が回っておられるということに他なりません。（それは時間の経過とともに、遡増する人生になること間違いありません。）

■当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

我々は音源やセミナー、コンサルを通じて鮎谷さんの「新明解国語辞典」もとい「新明解鮎谷辞典」の編纂過程を学ばしていただいているのであり、「鮎谷辞典」の方は単なる意味の解説だけではなく、それが良質の意思決定基準につながるように編纂されているのだから、読めば読むほど（聞けば聴くほど）自ずと結果が出るようになっているのかも知れません。

これからは「鮎谷辞典」を片手に、自らの辞典を編纂していくことに尽力いたします。

いつも目標に向かって楽しみながら邁進するための、新しい視点をご教示いただきありがとうございます。

これからも定期的な音源販売、楽しみにしております。 9

（パーソナルトレーナー兼トレーナー育成コンサルタント 中野茂徳 様）

この度も自分を律するのに最適な音源をご提供いただきありがとうございます。

この度も自分を律するのに最適な音源をご提供いただきありがとうございます。勝手ながら感想を送らせていただきます。

今回の音源を聞いて、自分の中で浮かんできたイメージが競馬のオーナーブリーダーです。競馬の世界で勝つために馬（語ども）を集める必要がある。馬が走るのが前提のため、そもそも馬を持っていないと話にならない。馬ならそれでいいというわけではなく、自分がどういう馬を生産するのか、どういうタイトルを狙うのかといった Being 目標を持っていないと、ただ馬（語ども）を集めることになる。天皇賞春を目標にしているのにスプリンターの血統ばかり集めていては当然目標に届かない。

馬の実力に応じたレースに出走させないと馬も騎手も育っていかない。自分の実力に応じた適切な難易度設定をすることにより条件クラスからオープン、重賞、GI へとどんどんアップグレードしていく。GI を取るためには一頭だしよりかは多頭だしの方が確率が上がる。質のよい馬（語ども）で軍団を形成したほうが、より高い目標に近づく。

馬を操るには騎手（アバター）がいる。
馬が強くなるに従って、騎手のスキルも上がる。
歴史的な馬クラスになると騎手が馬に鍛えられるということもありうる。

音源の感想というより自分の理解整理ですが、語どもなくして、自分の行動につながる目標を立てることすらできない。語どもがあるからこそ、目標から行動へ橋渡しをすることができる、ということを改めて学ばせていただきました。

この度も価値ある音源を提供いただきありがとうございます。
拙い感想で申し訳ございませんが、
お受け取りのほどよろしくおねがいします。

（片野敬勇 様）

鮎谷さんの寝起きの being 目標を聴いて、寝起きでこれだけの言葉が出るのか？と正直驚いたのと同時に、無意識レベルでそれだけ、本当はそれ以上に言葉を回すことができる人もいるという感動にもつながり、少しでも自分も近づけるように、自分の全国にいる「語どもたち」を集めようと思いました。

丁度、復習も兼ねて目標音源や日記音源を聴いていた時に、今回の音源がリリースされ、より効果があった気がします。

音源の中で、「目標を書いたが、臨場感が湧かない」という話があり、ドキッとしてしました。自分の中では、毎日日記を書き言葉を残そうとしているのですが、まだまだ行動が足りない。もっと沢山の言葉を編み、シーソーの向こう側、未来に重りを乗せていく。これが圧倒的に少ないことに気づくことができました。

鮎谷さんの寝起きの being 目標を聴いて、寝起きでこれだけの言葉が出るのか？と正直驚いたのと同時に、無意識レベルでそれだけ、本当はそれ以上に言葉を回すことができる人もいるという感動にもつながり、少しでも自分も近づけるように、自分の全国にいる「語どもたち」を集めようと思いました。

自分の中での「語どもたち」を集め、自分の愛する言葉を選抜してシーソーの向こう側に乗せています。

そして、優秀な「語どもたち」を増やすためにも自分の中の言葉を増やし、自分なりの定義を与えていくことが大事だと改めて感じました。私は、定義より解釈の方がしっくりきました。同じものを見ても、人によって解釈、感じ方が違う。言葉も同じ。その言葉に対して、いかに解釈していくか人によって変わるが、未来につながる解釈をしていくためにも、日記を書き続けていくことで、言葉の解釈が深まり、それが定着につながると信じて書き続けていきます。

もう一度、リスタートするというくらい気持ちで「語どもたち」を選抜して、未来への臨場感をあげていきます。今回も自分の行動が促される素晴らしい音源をありがとうございました。

(金融機関 R. I 様)

鮎谷さんの内的世界の共有として、140 にものぼる大事な語どもたちを共有いただいたことが自分で具体的に思考するにあたって、非常にありがたい音源の価値となりました。

鮎谷さんの内的世界の共有として、140 にものぼる大事な語どもたちを共有いただいたことが自分で具体的に思考するにあたって、非常にありがたい音源の価値となりました。

日々、あれらのような質の高い言葉と一緒に過ごしていると前に進む一歩が踏み出しやすい、綱引きで勝ちやすい、などというのも頷けますので、自分の語どもたちも作って试试看。

それらの語どもたちを使って、文章を編んでいく、自分なりの定義を日々つくっていくことで、自分の世界がより具体化されていくでしょうし、時には違和感を覚えて、新たな問いが生まれ、違う言葉に置き換えていくことになるのだと思います。

また、ご自分の仕事の言語化も事例として、7 個の定義で共有いただきましたので自分自身の仕事の定義も言語化してみようと考えています。

毎回、質の高い問いをもたらししてくれる、質の高い音源をご提供くださり、本当にありがとうございます。

成果につながられるように、精進していきたいと思います。

（医薬品会社勤務 M. F 様）

前倒し」という言葉1つをとっても、人によって（特に成果を出されている方と比べると）これだけ意味づけが違ってくるのか！という、驚きを感じざるを得ませんでした。

◆まずは、「前倒し」についての意味づけが印象に残っています。

音源を聴くまでは、正直、私にとっては、「前倒し＝少しでも早めにやる」くらいの意味づけでした。しかし、音源を聴いて、

「前倒し＝第二領域、1つ積むと楽になる、遡増、・・・」

「前倒し」という言葉1つをとっても、人によって（特に成果を出されている方と比べると）これだけ意味づけが違ってくるのか！という、驚きを感じざるを得ませんでした。

「前倒し」という言葉1つをとっても、そうなのであれば、それ以外にも、「お金」「仕事・ビジネス」「ご縁」「コミュニケーション」などなど・・・1つ1つの言葉に対して人それぞれ、意味づけは違っていて、それによる・認識の違い、世界観の違い・ひいては、行動の違い・ひいては、成果の違い人それぞれ、当然違ってくるであろうと。そして、それらの言葉は自分から主体的に取りに行かなければ変わらないものであり、（「主体的」というところがポイントかと）いくら学んだからといっても1つ1つの言葉の意味づけが変わらないのであれば、きっと成果には繋がらないんじゃないか。

そんな感想を抱きました。

◆語どもたちを戦わせるということ。

今までの語どもと、自分が新たに編んだ語どもや外部から取ってきた語どもを戦わせる。そして、勝った方（自分にじっくりくる方）を残していく。これは一度やったらお終い、ではなく、常日頃から戦わせて、戦闘力の高い語どもにアップデートさせていく。自分にとって気になる言葉を見つけたら、あるいは何かしら思いついたら、さっそく戦わせてみようと思いました。

◆目標を立てたけど、今ひとつ臨場感が沸かない人について。

※自分もご多分に漏れず・・・（それでも、以前よりは多少ましになってきましたが）この音源を聴いて、謎が解けました。自分が震えるような言葉を集めてきて、語どもたちを言葉にしていきます。

◆各種音源とのつながり（目標、日記、物語、ピラミッド、アバター）

今回の音源は、上記の各種音源を補強してくれるものであることが分かりま

■当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

した。なので、合わせて音源を聴くことで相乗効果が出てくるかと。

◆辞書を編むのは、生涯かけて楽しめる。

辞書を編むのは、お金がかからない、幸せなことであり、自分も、自分なりの辞書を編んでいこうと思いました。※鮎々辞典、ならぬ、ＹＹ辞典を編んでいこうかと（笑）

◆鮎谷さんの語どもたちのご紹介（１５０個くらいでしょうか）成果を出されている方は、これだけの数の言葉を回しているのだなあと非常に参考になりました！

※私も、できるものはＴＴＰ（徹底的にパクる）させていただこうかと(^-^; また、鮎谷さんの睡眠についてもそういう睡眠のされ方をされているんだなと！こちらも、個人的には印象的でした。

◆これからに向けて本当に地道にですが、まずは１日１語を目標に見直していこうと決意しました。

（M. Y 様）

音源の後半ではハイライトとして、鮎谷さんの語どもたちを披露いただき、大変参考になりました。まさに鮎谷さんの頭の中を垣間見たような感じで、一部とは言え非常に多くの概念を言語化し、それを短時間で引き出せるほどに身体知化されているが故の圧巻のパフォーマンスだと感服しました。

語どもたち音源の前半では、

「目標を書いたが臨場感がわからない。本気にならない。どうしたらよいかという質問が多い。」

ということをその理由を考えながら興味深く聞きました。
荒唐無稽な目標であればあるほど、臨場感はわからないし、本気になれない。
よって、目標を立てたものの実現できないということは当然の帰結ですが、これに対し、人生ゲーム化音源では適切な難易度の目標設定、ピラミッド音源では、目標の階層化を学び、そして、今回語どもたち音源で、これらをさらに強固なものにする、言葉の自分自身による定義化が重要であることを学びました。

誰しも意識するとしなにかかわらず、それぞれ個別の辞書（解釈システム）を持っている。意識しなければ、ぼんやりとした曖昧な感覚的なものでしかないが、意識して、自分の定義を言葉として書き出していくこと、すなわち、借り物でない自分の辞書を編纂することが、目標に臨場感を持たせ、モチベーションの向上につながるのではなか。そのように考え、目標を構成する一つ一つの言葉に対する自分独自の定義を言語化しようと考えた次第です。

音源の後半ではハイライトとして、鮎谷さんの語どもたちを披露いただき、大変参考になりました。まさに鮎谷さんの頭の中を垣間見たような感じで、一部とは言え非常に多くの概念を言語化し、それを短時間で引き出せるほどに身体知化されているが故の圧巻のパフォーマンスだと感服しました。

早速、音源を都度停止しながら、語どもたちを書き出して、その中から自分にも当てはまる語どもたちを抜き出して、さらに自分で思いついた語どもたちを追加してみました。今後も思いつくたびに語どもたちを追加し、入れ替えて目標に向かっていきたいと思います。

今回も貴重な音源をリリースいただきありがとうございました。

(K. N 様)

良質な言葉を集めるとともに、その言葉を自分なりに定義をして実際に意思決定基準として使えるようにしていきたいと思います。

鮎谷様

この度は、貴重なお話を聞かせて頂き有り難うございました。

これまで意思決定基準となる良質な言葉を集めただけでは“借り物”に過ぎず集めた言葉を自分自身で定義し、自分の身に付けていかねばならないのだと思いました。

同じ言葉でも、自分がどう定義するかで物事の見方が変わり、自分の行動も変わって来るという事が、「土地」という言葉についての例からよくわかりました。定義することによって、言葉が曖昧としている自身の考えを明確化してくれ、行動が変わっていくのだと思います。

語彙もない、持っている言葉の定義もない状態では、考えも行動も曖昧なままなので、変わりたいと思っていても変わるはずがありません。

良質な言葉を集めるとともに、その言葉を自分なりに定義をして実際に意思決定基準として使えるようにしていきたいと思います。

この度は、有り難うございました。

(林 様)

今回の音源を聞いて、改めて自分自身の語彙の少なさに思い至りました。

鮒谷さま、
セカンドステージの皆様

お世話になります。

『舟を編む』という作品はとても好きな作品でしたので、興味深く聞けました。1つの仕事に情熱をかける人々は、本当に素敵です。

また、最近英語を学びなおしているので、言葉の問題や語彙の話は、私なりにとても腑に落ちるものでした。

今回の音源を聞いて、改めて自分自身の語彙の少なさに思い至りました。限られた世界の専門用語は他の人より少し多いかもしれませんが、being 目標につながるような言葉は鮒谷様の 10 分の 1 もないように感じました。語彙を増やし、それによって目の前の世界が豊かになるというのは、本当にそのとおりだと思います。

同じ世界を見ても、その構成要素が言葉になっているかいないか（意識されているかいないか）で、見える世界は違っているのだということも、よくわかりました。駅の発車メロディー、蝉の鳴き声の違い、車の車種、アイドルや俳優の顔など、意識すれば言葉になり（あるいは言葉がわかり）、その部分の世界が変わっていくのでしょうか。

具体的な世界だけでなく、抽象的な世界でも、もっと言葉にして意識して、自分の身に付けなければならないものがたくさんあると感じています。いい言葉を集めるためには、外の世界を見ることも必要なのだと思いました。

同じ世界にいと、どうしても世界が狭く閉じてしまいがちになります。この音源を聞いた後に、『自問自答』音源を聞くと、また違った点が印象に残ります。

次は日記音源もまた聞き直して、いい言葉集めからやってみようと思いました。

（K. S さま）

自分を鼓舞し、意思決定基準として、無意識から「語どもたち」が、あふれるようになるまで、繰り返し繰り返し、刷り込むことの重要性を、また、違った角度から、示唆していただきました。

今回の【語どもたち音源】ですが、僕自身の源泉に触れる、非常に刺さる音源でした。

子どものころ、広辞苑を読み、漢字辞典を眺め、故事成語事典を読むことで、「言葉」に対する興味と関心を多く持っていました。ただ、大人になり、辞書を開くことがなくなり、言葉の意味に対して、鈍感になっていきました。そして、この音源。聴くにつれ、子どものときに辞書にワクワクした感覚がよみがえり、なつかしくも、知的好奇心をくすぐる、非常に浸透していく感覚を持つ音源でした。

人間は言葉で思考し、言葉で行動を制御するのであれば、言葉や「語」に対して、鋭敏になるのは当然のところ、正直、あまり意識していなかった部分でもありました。それぞれの言葉について、あまりにも「知っているつもり」になっていること、多数。自分を鼓舞し、意思決定基準として、無意識から「語どもたち」が、あふれるようになるまで、繰り返し繰り返し、刷り込むことの重要性を、また、違った角度から、示唆していただきました。この観点を得たことによって、毎日のメルマガが、いかに「語どもたち」を収集することに最適な媒体なのか、というのを強く、強く実感した次第。

これからも、自分自身の「語どもたち」に対して、成長を促進するべく、音源とメルマガを何度も何度も聴いていきます。

引き続き、楽しみにしております。
どうぞ、よろしくお願いいたします。

(S. I 様)

言語化の大切さは、いろいろな人や本からも叫ばれていますが、ここまで細部に至るまで語られたものにであったことはありません。

この度は素晴らしい音源をご提供くださり、誠に有難うございました。

今回、一番印象深く残ったのは、ピンときた言葉を定義づけるということでした。

言語化の大切さは、いろいろな人や本からも叫ばれていますが、ここまで細部に至るまで語られたものにであったことはありません。

自分がこれとは思った言葉を自分なりに定義をして、いつでも取り出せるように辞書を編んでいく。これを積み重ねることにより、語どもたち同士がリンクし始めて、やがてクラスターを起こし世界をよりリアルに感じることができる。また自問自答も加速して、世界の鮮明度が増し、他の人には見えないものまで見る力も得られる。

鮎谷さんの選り抜かれた緻密な語どもたちを聞かせていただき、まさに、圧巻で模倣される存在ありつつ模倣をあきらめさせる存在であることに知らされます。

今後、これは思った言葉を定義づけ質の高い脳内辞書を編纂してまいります。

これからも、新しい視点が得られ、脳内言語が書き変わる音源を楽しみにしております。このたびは深い学びの宝を頂き、誠に有難うございました。

(Y. F 様)

「ああ、なるほどそうか！！これは目標達成からアバター、プロフィールセミナー、に繋がっている。それを繋いでいるのが語ども達なんだな」と理解しました。

鮎谷様

いつもお世話になっております。

感想まで時間がかかりました。

というのも最初一度聴いた時は「分かるのだけど ん？」という感じでした。上手く自分の中で咀嚼が出来ないのです。それが二度、三度、4度と聴いても「分かるのだけど ん？」なのです。

何度聞いたか分からないのですがある日

「ああ、なるほどそうか！！これは目標達成からアバター、プロフィールセミナー、に繋がっている。それを繋いでいるのが語ども達なんだな」

と理解しました。

なので未来に向けて言葉を拾っていく重さをつけていくという事も分かりますしシステム作りが仕事それ以外は作業ということも分かりますしソーゲームのあちら側に行く為になんども自分の語ども達を取捨選択していくという事、全部ビーイングに繋がっているのだという事がすべて繋がりました。

言葉という事をそういう風に捉えるのだ。だから重みが出るのだな。

とも。

で、やることはボクも「語ども」を大切に育てていくという事を意識して未来へ向けて実践してきたいと思います。

今後も宜しくお願い致します。

(都 章 様)

自分の脳内辞書を編纂することで、一つ一つの自問自答や意思決定基準の重みが増すというか、行動に対する動機、意味付けがより大きくなります。それにより、より行動を起こしやすくなりました。

今回の音源は、「言葉」に対して、どれだけ自分の定義、意味付けを加えることができるか、ということを知りました。言葉といっても、多種多様な言葉があり、日常的に使いすぎて意識すらしていないものもあります。まずは、自分が普段どんな言葉を使っているのか、そして、どのような意味を付けて話しているのか、そこに気づくところからだと思いました。

今回の音源は、考え方の部分になるので、抽象度が高く、応用範囲がかなり高いと思いました。

のぞむ状態＝being 目標を明確にする。そこに至るまでの過程、プロセスとして having 目標、doing 目標を作り、具体的に細分化していき、あとは実際に行動をしていき、調整修正をしていくことになると思うのですが、わかっちゃいるけど動けないのが一番の問題になると思います。

そのために、何回も自問自答の反復を行ったり、意思決定基準を設けたりすることで、すこしでも動けるようにしています。自分の脳内辞書を編纂することで、一つ一つの自問自答や意思決定基準の重みが増すというか、行動に対する動機、意味付けがより大きくなります。それにより、より行動を起こしやすくなりました。

普段だとそのまま流してしまうような事に対しても、その意味や、どうしたら良いのか等考えるきっかけや気づきが増えています。言葉という抽象的であるがゆえに、対象範囲もものすごく広がるのですが、内容は、今までの音源の核となる部分に触れているのではと思います。「目標」という言葉に対して、どこまでの意味付けを与えているのか、「意思決定基準」という言葉に対して、どこまでの意味付けを与えているのか、「タイムマネジメント」という言葉に対してどこまでの意味付けを与えているのか等々、鮎谷さんはそれぞれの言葉に対して、音源1本分の内容が辞書編纂されているということで、その量に圧倒されてしまいました。

また、鮎谷さんの語どもたちを公開してくださり、その量の多さ、そして、その一つ一つが音源1本分以上の内容なるのだらうと思うと、自分がどれほど量が足りず、スカスカの状態が分かり、語どもたちを増やして、成長させていこうと思いました。

(Y. N 様)

本音源で鮎谷さんが「ハイライト」とおっしゃっていた、自らの語どもたちの披露...まさに圧巻でした。寝ぼけながら腹ばいで書き拾ったとのことですが、それでもこれだけのものが排出されるとは...。目標とそれを定義する言葉（語彙）、私の内面での集積はまだまだ薄っぺらいものであると実感しました。

鮎谷 様

このたびも学びの機会をありがとうございました。
この感想の作成に入る前に通しで4回聴きました。

人は、自分の持っている言語セットを通して世界を見ている、よってその言語セット＝語彙を、収集、選抜、編纂し続けていき、語彙力を高めることが肝要、というふうに私は受け取りました。

そして、それを知っているだけでは意味がなく、日々実行し歩を進めつつける...なかなか難しそうですが、取り組んでいきます。
（収集、選抜、編纂の作業の結果は、「時々刻々の記」に記述を残していけばよいのでしょうか？）

また、本音源で鮎谷さんが「ハイライト」とおっしゃっていた、自らの語どもたちの披露...まさに圧巻でした。寝ぼけながら腹ばいで書き拾ったとのことですが、それでもこれだけのものが排出されるとは...。目標とそれを定義する言葉（語彙）、私の内面での集積はまだまだ薄っぺらいものであると実感しました。

このたびもありがとうございました。
つぎの音源も期待しております。

（H. N 様）

結局、自分の辞書の中の「言葉」という項目の説明があまりにも貧弱であり、全く「言葉」に対しての新しい語どもが入ってきていない。だから日々日記を書いているにもかかわらず、なかなか日記のレベルが上がっていかないのはそういうことかと理解しました。

鮎谷さん、
大塚さん

感想の送付が遅くなり申し訳ありません。
遅くなりましたが、語どもたち音源の感想を送らせてもらいます。

言葉の限界が自分の世界の限界、可能性の限界である。言葉で表せないものは語れないし、見えない。まさしく冒頭から、納得の一言でした。

とはいいつつ、私も「舟を編む」を読んでいたにもかかわらず、ただの読み物として読んだ私と、鮎谷さんとの差に愕然としました。言葉に対する being 目標を掲げているか掲げていないかの違いでしょうか。あまりに言葉に対して、自分自身がどうありたいのか考えていないことを痛感しました。

結局、自分の辞書の中の「言葉」という項目の説明があまりにも貧弱であり、全く「言葉」に対しての新しい語どもが入ってきていない。だから日々日記を書いているにもかかわらず、なかなか日記のレベルが上がっていかないのはそういうことかと理解しました。

ピラミッド音源にも通ずると思いますが、目標は掲げている。日々の行動もある。しかし、いまいち逡増している感覚が少ない。それは、中目標が非常に曖昧になっているからではないか。それは、そもそも言葉に対しての being 目標を明確に掲げていないからではないか。ここでも言葉は大事だと知ってはいたが、知っているだけで、結局、判断基準、行動基準まで落ちていない。

音源でも言われていましたが、言語のシステムをつくる必要があると感じています。となると、次はシステム化音源ですかね。

（菅 智教 様）

皆さんの投稿された感想も非常に参考になる文章ばかりで、鮎谷さんのおっしゃる通り、復習のためにも音源は最短で購入するに限ると感じた次第です。

いつも素晴らしい音源をありがとうございます。

植物の名前の例、車種の例を挙げながらご説明いただいた、「言葉の限界が自分の世界の限界」という説明を聞いてまさにその通り、というよりも少し怖くなりました。

「ご縁」「仕事」「前倒し」「お金」といった誰もが知っている言葉の語釈の質が人生の質に繋がっていくのであれば、これらを意識せず5年、10年経った時の人生の質の乖離はいかほどだろうかと感じたからです。

これから取り組むべきは、鮎谷さんがスラスラと読み上げられたような筋のいい「語どもたち」のリクルーティングと、自分がこうありたいと思える語釈を与えることなのだと、視界がクリアになりました。

皆さんの投稿された感想も非常に参考になる文章ばかりで、鮎谷さんのおっしゃる通り、復習のためにも音源は最短で購入するに限ると感じた次第です。

(K. M 様)

「目標設定」音源、「日記」音源を聞いて目標を書いてみて、今まで何年もやりたくても出来なかったことが簡単に達成できたことに驚きました。その一方で目標にしたものの全く何も変わらない、近づいている感覚もないようなモノも多数残っており、その原因がわからなかったのですが、今回の音源を聞いて視界が開かれたような気がしました。

「目標設定」音源、「日記」音源を聞いて目標を書いてみて、今まで何年もやりたくても出来なかったことが簡単に達成できたことに驚きました。その一方で目標にしたものの全く何も変わらない、近づいている感覚もないようなモノも多数残っており、その原因がわからなかったのですが、今回の音源を聞いて視界が開かれたような気がしました。

今回学んだことは

「同じ言葉を使っている、その言葉の定義や解釈は人それぞれ違い、持っている辞書が違えば見えている世界も異なってくる。」

「正しい正しくないという問題ではなく、言葉を定義づけし、自分の辞書を編集することが重要。」

「自分の辞書の編集方針を立てて、辞書のアップデートを続けることにより、自分のありたい姿に近づいていける。」

といったことです。

達成できた目標については、自分で意識はしていないながらも、日記に書いた言葉の定義がクリアになっていたのに対して、出来なかったモノは目標を書くには書いたもののその言葉の定義が曖昧で、それ故に臨場感を持てなかったのが原因だったと気が付きました。実は恥ずかしながら「時々刻々の記」というのがうまくイメージ出来なかったのですが、「辞書を編む」という説明は非常にわかりやすく腑に落ちました。辞書は編んだ瞬間から陳腐化していくため常にアップデートしていかななくてははいけない。

そのためには優秀な言葉を集めて、競わせ、組み合わせることによって言葉の再定義をするという作業を続けていくことが必要。結果として思考が深まり、向こう側の世界に重みづけすることが出来ると理解しました。

今回もありがとうございます

(T. U 様)

この音源で一番の気づきは、自分がなかなか行動できないでいた理由がわかったことです。

つねに新しい音源をご案内いただきありがとうございます。

メルマガも時に楽しく、時に心苦しく読ませていただいております。
私にしてはリリース後最速で購入したのが、今回の「語どもたち音源」でした。行動できないのは・・・のフレーズが気になっての即買いした次第です。

この音源で一番の気づきは、自分がなかなか行動できないでいた理由がわかったことです。

いつも他人の言動が気になりすぎて、自分の定義するところが曖昧なままだったのでした。今の自分に必要なのは、「自分の辞書を編む」こと。よく「言語化」といいますが、言葉にすることも慣れない私には意外と難しいと感じていました。（そして、言語化を放棄したり何となくごまかすことが多かったのです。結果モヤモヤとしていました）

それが、「ひとつひとつの語たちを、自分で定義する」と考えると、答えが自分にしかないので進めやすいと感じたのでした。日記の中に少しずつ語彙を増やしていける！増えたらつながっていける！時間がたっておかしい？と思ったらまた再編集、いらないと思ったら追放すればいい！と、未来のことも楽しくできそうな気がしました。

鮎谷様も「生涯かけて遊べる！」と言われていました通り、難しいことではなく楽しく続けられる印象を受けました。

これからの生き方を、自分の考えで進めて変えていくと決意した次第です。

この度は本当にありがとうございました。

（Ｙ． Ｉ 様）

今回もヘビロテのスタメン入りの音源リリースをありがとうございます！

購入のきっかけは読者さんの感想+鮎谷さんのメールコンボにやられたことですかね？？

ゲーム化音源、自問自答音源、語どもたち音源と怒涛のセールスメールで遂に陥落し、陥落した自分自身をやっぱり陥落したなぁと楽しんでます(笑)リリース直後には売れん、売れんのだよ！って嘆きのメルマガがきたり鮎谷劇場を楽しく観覧しておりました。

他の音源の感想は未だ送っておらずすいません。。聞き始めてたぶんまだ5周目くらいですので理解不足のところはご容赦ください。まず、『えー、そこですか？？』と言われても仕方ないですが(笑)

他の方々の感想にあった諸々よりも開始早々本題に至る導入部とっていい12分での辞書での『右』についての記載についてのくだり。これがとてつもない衝撃でした。説明を聞いてみれば『なるほど、当たり前じゃん』という話なんですが、、、『右について言語で説明せよ』という問いに自分では言語で説明することできない！？と気づいてしまったこと。『見えざるものを見る能力』という言葉はよく言われることですが『見えていながら見えていないもの(事実)に気づく能力』(見えていながら見えていないという疑いすら抱いていない怖さ)には思い至っておらず、パラダイムシフトなんて言葉が陳腐に感じるくらい自分自身の概念や認識、世界観みたいなものが崩れ落ちました！！

他の音源で聞いた『レシピは言語でできている』のように言葉が作り出し得た無意識、無自覚の世界観が自分の人生を歩む設計図だと思ってますので如何に心豊かな心象風景を描き出す言葉を手にできるか？

平成進化論と出会って以降、もう少し具体的にいうなら物語音源と出会って以降、『ハッピーな世界から豊穡な世界へ』この言葉がいつも胸にあります。にもかかわらず、『右』などという具体的すぎる言葉を説明し伝える『言葉』を持ち合わせていない説明し伝える『方法論』を持ち合わせていない自分にショックを受けたのです！

『コロンブスの卵』的な話で知ってりゃできるよ。とか言って負け犬の遠吠えにはせず『知らなかった、認知していなかった』それがすべて、現時点での等身大の自分自身認めて不足を補うしかない。『まだまだ延びしろがたくさんある！！』これ、最近のお気に入りのキーワードです(笑)

そして、もうひとつ心のどこかでそうかな？と思っていた鮎谷さんのことが垣間見えたこと。全国からスカウトしてきた語どもたちを切磋琢磨させ、競争させる。すると進化したり、脱皮したりする。とのこと。言葉ではわかるような気もするけれども感覚的にもそうなのかなー？って感じではあるけれども『んんん？わかったような、わからんような、、、？？』それでも『おおおおーっ』って感動(?)

■当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

したのが支配下登録選手が云々とか言い出したあたり。奇人変人大集合ってお話しされてた物語音源に出てくる数々の事例新聞丸めてネコやネズミ作る人とかセロハンテープの人や氷柱の人その人たちと一緒にじゃん！！

ある種の狂気(狂喜?驚喜?)を持って語どもたちを取り扱っているんだろうな。という想像。得も言われぬ飴色の～って彼と支配下登録選手が～って一緒。(笑)好きこそ物の上手なれ で自分の狂気を帯びた熱量を持って向き合う何かを見つけて鍵と鍵穴がバシッと嵌まれば2日でも3日でも語り尽くせぬ『自分にとっての或るモノ』になる。

これを自らの言葉で言い表し得た時に別次元の世界に踊り出すのだろう。数々の音源を聞いてきていっても物語音源に紐付くことは自分の中にある思いは『物語』ってことなんだろうと再認識。時間軸を思いっきり後ろにずらして短期で回収せず、長期遡増この辺の言語、語どもたちがどう進化、脱皮を遂げていくのか?楽しみながら人生を歩んでいこうと思います。

今回もヘビロテのスタメン入りの音源リリースをありがとうございます！

P.S.鮎谷さま大塚さまいつもお世話になりありがとうございます。まだまだコロナの終息も見えず、右往左往。まだまだ暑さも厳しく熱中症も心配です。ご自愛の上、笑顔でお過ごしくださいm(____)m

(T. H 様)

語ともだちって？から始まった音源でしたが、これまで言葉にしていなかった・出来なかったことを音源を通して学ばせて頂きました。

語ともだちって？から始まった音源でしたが、これまで言葉にしていなかった・出来なかったことを音源を通して学ばせて頂きました。

■気づいたこと・深く学んだこと

私は、「〇〇名言集」などから気に入った文言を読んで納得→良くてコピーして次の名言を探すを繰り返していました。そして、名言集めが目的となり「名言コレクター」と化していました。それがいかに無駄なことで、身についていないかつ実践の場で生かされていないかを本音源で気づかせて頂きはっとしました。

■決意したこと・これから行動しようと思ったこと

良質な意思決定基準となる文言を発見して、その文言の定義づけを行う。そこから生まれる自問自答を繰り返し、自己編纂を行い脳裏に刻み込む。そして実践の場で活かせるレベルまで昇華させて周囲の皆様へのお役立ちになる事で成果を上げていく。

■特に印象に残ったこと

語ともだち音源に出会っていなければ、一生誤ったやり方を続けて「新しものホッパー」「名言集めホッパー」のまま人生をさまよっていた。

更に、他の音源と併せ何度も何度も聞きこんでとことん活用し切ります。ありがとうございました。

(河野徹 様)

鮎谷さんのお話を聞かされた時に、一つ一つの言葉をより細かい分解能で感じ取ることができるようになってきました。

購入前は、音源タイトルをみて「???」状態でしたが実際に聞いてみたところ、「語どもたち」と表現された意味がよくわかりました。

全国行脚オーディションでスカウトした語どもたちによって

「こんな自分がいたのか！」

と、震える自分を発見させてもらう・自分自身を舐けてもらうと解釈すれば日常の中で、子どもを持つ方からよく聞く

「自分のこどもから教えられることがたくさんある」

ということ同じかな、そう考えればまさに「語ども」だな、と。

また、ある言葉に対して

「自分が震えるか？しっくり感・臨場感を感じているか？」

と内観することがとても大切だと感じましたし、内観を深めるために数多の言葉に触れ、一度はしっくり来た言葉、を新人ルーキーワードと競争させることでより精錬させていく、というイメージで日記に取り組んでおります。

この行為を繰り返すことで、ピラミッドの頂点がより高くなり&精緻化され、ピラミッドの「みっしり感」がより増していくという認識です。(ピラミッド音源も合わせて購入させていただいたのでようやく「ピラミッド」の意味がわかりました(汗))

以下、蛇足ですが、同じ日本語を使っているからこそ無意識に

「みんな自分と同じ意味で言葉を使っているんだろう」

と勘違いしたりミスコミュニケーションが発生することが多いと思っています。しかし実際は、同じ日本語、同じ単語でも各人が思い浮かべるイメージ・意味付けは全く異なる場合も多い。人によってその言葉から想起されるストーリーは全く異なる。それ故に「自分自身にささる言葉」を自分の中で編んでいくことを死ぬまで繰り返すしか無い、と。

まず心に響いた言葉を口に入れ消化器官でアミノ酸レベルまで一度分解し自分の血肉として再構成する、消化吸收プロセスを経て初めて自分の言葉となるイメージです。

■当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

鮎谷さんのお話を聞くたびに、一つ一つの言葉をより細かい分解能で感じ取ることができるようになってきました。ここからは自分の言葉化・自分の辞書づくりも日記&手書き駆使しながら試行錯誤して行きます。

（制御機器エンジニア M. M 様）

同じ言葉をもっている、まだまだこんなにも世界が違うのかとも、改めて圧倒させられました。

いつもお世話になりありがとうございます。

今回も貴重な音源を販売して戴き誠にありがとうございました。

最後の鮎谷さんの「語どもたち」を披露してくださったハイライトは、本当に参考になりました。 お聞きしていると大変大変おこがましいですが、「結構同じ言葉回している！」なんて思ったものです。しかし、よくよく考えると、鮎谷さんから音源やメルマガで学んでいるため、鮎谷さんの言葉が回ってこないわけがないですね。鮎谷さんと同じような言葉が回ってこないとなると、今まで何も学んでいなかったことになります。

中田さんや船津さんの音源のように、「このことはこの音源で語られている」「あのことはあの音源で語られていた」と思い返すこともできるくらいヘビロテしてきたつもりです。多少なりとも鮎谷さんと同じ言葉をもっていたので「少しずつでもインストールできているかな」と思ったのですが、

同時に、同じ言葉をもっている、まだまだこんなにも世界が違うのかとも、改めて圧倒させられました。 今回の音源で語られているように、同じ言葉であっても、それぞれの言葉の辞書や意味の違いが、こんなにも世界の違いになるということ、まざまざと実感させられました。

言葉にどんな世界をもたせているかによって、その人の世界が変わってくる。鮎谷さんと私たちは、同じ世界を見ているはずなのに、きっと全く違うフィルターを通して、全く違う世界を見ておられるだと思いました。

少しでも鮎谷さんと同じ世界を見られるようにこれからも学ばせて戴くと共に、私自身の「語どもたち」を大切に育てていき、世界を広げていきます。

いつもありがとうございます。

まだまだ暑い日が続きますがご自愛ください。今後ともよろしくお願いします。

(桑原 考太 様)

細かな言葉の定義を一つ一つ緻密にして、矛盾を解消する。そして、言葉のパワーが最大限発揮され、それが実際の行動にも繋がる。そんな思いを確信に変えてくれた今回の音源に感謝しています。

今回の音源は私にとって、非常にタイムリーなものでした。それは、自分自身の辞書の中で、基本語が変わってしまい、大きな組み換えの真っ最中にあるということがわかったからです。この状態を言語化できたということが、私にとって非常に大きな価値でした。

というのも、この音源で鮎谷さんが話されていたこと、

「墓標に刻む言葉なんて盛り上がらない」

とおっしゃっていた話、また

「1000 億の売り上げを作らなきゃダメだ」

という話への違和感のところに関連します。

今まで私は目標を立てる時に、「いかに社会やみんなの幸せに繋がるか」ということを中心において考えてきました。これはほとんどの本に書かれているし、成功者が口をそろえて言っているので、そういうものだろうと思って、無条件に受け入れていたのです。しかし、どうやら私はそれでは盛り上がらないタイプだということが最近になってやっとわかってきました。ただ、あまりにも長くそう信じていたことと、「みんなのために」が重要でない自分が何か人間失格のような気がして、受け入れ難いということもあり、なかなか消化しきれない自分がいます。

そして、この状態は今回の音源で言う「基本語」の定義が大きく変わってしまい思考のピラミッドを組み換えている最中なのだなということがわかりました。新しいピラミッドの頂点に位置するものはまだ完全に言語化できていません。でも、Google の ミ ッ シ ョ ン Google's mission is to organize the world's information and make it universally accessible and useful.のように、自分が何かを追い求めていった結果、それが人の役にも立つ、という形になるのかなと考えています。それを自分なりに編纂する作業がしばらく続きそうです。

言葉に鈍感な人であれば、「何をそんな細かいこと」と言われるかもしれません。しかし、そんな細かな言葉の定義を一つ一つ緻密にして、矛盾を解消する。そして、言葉のパワーが最大限発揮され、それが実際の行動にも繋がる。そんな思いを確信に変えてくれた今回の音源に感謝しています。

音源の内容というより、自分語りになってしまいました。しかし、今回の音源の一番の価値はこれを聞いて自分の中で沸いてきたこんな確信そのものでした。

今回の音源を聞いて、感じて、想ったこと、ということで、ご容赦下さい。

いつも良質なコンテンツのご提供ありがとうございます。

今後も期待しております。

(半導体エンジニア 蔵本貴文 様)

鮎谷さんのメルマガはもとより、言語化、語彙の重要性というものは盛んに叫ばれているところですが、その重要性の再認識にとどまらず、なぜそれが重要なのか、具体的にどのようにそう行った能力を伸ばすのか、などより深く理解を得られたと感じます。

本音源を拝聴し、今回も多くの気づき、学びを得ることができました。

鮎谷さんのメルマガはもとより、言語化、語彙の重要性というものは盛んに叫ばれているところですが、その重要性の再認識にとどまらず、なぜそれが重要なのか、具体的にどのようにそう行った能力を伸ばすのか、などより深く理解を得られたと感じます。

私も含め、自分がどうありたいか、何をやりたいのか、などのbeingあるいはdoing目標というものがわからずに悩んでいる人間は少なくないと思います。これは当然人によって異なるものであるにも関わらず、「世間一般の基準」に合わせてしまい、それがたまたま本人のものと合致すればいいのですが、ずれている場合には、目標の達成ができない、あるいは達成できても満ち足りない、ということになるのではないかと思います。

おそらく、本当にやりたいこと、というのは（多くの人にとっては）直接的には見ることでできない潜在意識に根ざしており、感覚や感情などの非言語的な情報の要素が大きいのではないかと思います。この不可知である潜在的な願望・欲求を言語化して、顕在意識に持ってくるためのツールが本音源で言うところの「語どもたち」に当たるのではないかと理解しました。

語どもを集めて、育成・選別する過程において、潜在意識との合意の得られないものは脱落し、選ばれたものはより具体的、詳細な意味を持つ「言葉」へと成長します。日々入ってくる多くの情報をもとに、自分の辞書を更新し続けるうちに、「語ども」の重みがどんどん増えていき、現在自分が生きている現実よりとのバランスがひっくり返った時に言語が現実化することになります。これも目標は具体的であればあるほど達成されやすい、という法則を別の側面から見ていることになるのでしょうか。

もう一つ、非常に感銘を受けたのが、同じ言葉でも人によってその人の辞書に入っている「定義」が全然違う、と言う点でした。ある語彙から想起される思念、抱くイメージなども広義の「定義」に含めるならば、これは言葉だけではなく、ものや事象、出来事、あらゆることに対して当てはまります。

右翼と左翼にとって、それぞれ共産主義や朝鮮と言った言葉の定義は、それぞれ全く異なったものになるかもしれません。

色の認知能力さえも、それを区別する言葉があるかどうかで差が出て、た日本人であれば英語のLもRも『ら』になってしまい、30,000円が一食分の料金であったり、1ヶ月の食費であったりするかもしれません。

■当音源（圧巻！鮎谷周史の「語どもたち」音源）はこちらからお求めいただけます■

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>

コップ半分の水を見て、入っている半分を見るか、入っていない空気の部分を見るか、など、同じものを見て（眼球に写っていても）、見ている（認識している）ものは人によって違うように、同じ言葉を聞いても、その脳内での認知のされ方は異なるのです。

1 億円欲しいと言っても、それが単なる数字以上の意味を持たない人と、1 億円あったらどんなことができるのか明確にイメージできる人では、後者の方が当然一億円得られる確率が高い。これが意識的な無意識にかかわらず、「一億円」という「語ども」の育成の差、と言えるのかもしれません。

言葉の認識は世界の認識であり、語彙を増やすことや、語彙を育成することは、まさに世界を広げることになるのだと思いました。言語の世界は抽象的で実在するものではありませんが、人間は基本的には言語で思考する生き物で、明確な言語化なしには、目標を実現することも困難でありましょう。（自分にとって）世界が、自分の認識に基づくものである以上、自分の住みたい世界、を言語化するために必要となる語彙、その候補である語どもを集めて育成することは必須と感じました。

（M. T 様）

あなた様の

鮎谷周史の、圧巻！

「あえて言おう。語彙力のない人は成功できない、と！」
放談会音源

のご購入をお待ちしております。
お求めは下記リンクよりどうぞ。

<https://form.os7.biz/f/8e88c7b3/>